

別記様式第7-2号(要領(Ⅱ)の第10関係)

養蜂等振興強化推進事業のうち在来種マルハナバチの利用拡大支援事業に関する事業評価票

協議会名	事業実施	具体的な取組内容	取組の実施時期、事業量等	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				事業内容	地方農政局長等の意見
					基準年 (計画策定時) 平成29年	目標年 令和3年	目標値	達成度合		
東美濃夏秋トマト生産協議会	平成30年度	東美濃夏秋トマト生産協議会技術部会を中心に検討会を開催し課題を整理した後、実証圃を設置し着果状況等を調査した。 実証圃での取組結果をもとに若手生産者及び3S栽培生産者に向けた研修会を実施した。 各地域栽培研修会で講習会の実施を行った。	平成30年度 ・検討会3回(4月、7月、11月) ・実証圃設置(5月～9月) ・講習会の開催(12月～平成31年2月) 令和元年度 ・新たなUVカットフィルムの試験導入及び普及 令和2年度 ・研修会の開催 令和3年度 ・若手生産者や規模拡大生産者の省力化目的の導入及び普及に向けた研修会の開催	在来種マルハナバチの利用農家数を基準年から20%以上増加する。	10.34% (在来種マルハナバチの利用人数29人中3人)	48.48% (在来種マルハナバチの利用人数33人中16人)	32.35% (在来種マルハナバチの利用人数34人中11人)	150%	実証圃場を設置し、これまでのセイヨウオオマルハナバチ利用に代わってクロマルハナバチ利用の栽培試験を行う事により、クロマルハナバチの利用効果の実証がされた。従来のホルモン処理やセイヨウオオマルハナバチ利用から、クロマルハナバチへの転換・普及へと繋がった。クロマルハナバチ利用に適した栽培環境(UVカットフィルム等)を利用することにより安定的な栽培体系の樹立がなされた。	協議会の事業計画どおり成果目標も達成されており、適正な事業執行と評価する。実証を踏まえて、今後もセイヨウオオマルハナバチに代わりクロマルハナバチへの適正な転換・普及が見込まれる。

別記様式第7-3号(要領(Ⅱ)の第10関係)

養蜂等振興強化推進事業のうち花粉交配用蜜蜂の安定調達支援事業に関する事業評価票

協議会名	事業実施	具体的な取組内容	取組の実施時期、事業量等	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				事業内容	地方農政局長等の意見
					基準年 (計画策定時) 平成29年	目標年 令和3年	目標値	達成度合		
豊橋花粉交配用蜜蜂安定調達協議会	平成30年度	・協力プランの作成 事業実施委員会を開催し、安価で簡易な保温箱による交配用蜜蜂の冬期損耗軽減を図るための方針の決定 ・技術実証 ・マニュアルの作成、講習会の開催	平成30年度 ・協力プラン作成の検討会議開催(H30年6月、H31年3月) ・冬季の蜜蜂の生存率向上の実証実験(H30年11月～H31年2月) 平成31年度(令和元年度) ・マニュアルの作成(H31年2月～3月) ・講習会の開催(H31年2月)	事業実施地域において、園芸農家から養蜂家に返却された蜂群の生存率の5ポイント以上の向上。	60% 巣枠販売6,000匹のうち3,600匹の生存率(平均下限値)	65% 巣枠販売6,000匹のうち3,900匹の生存率(平均下限値)	65%	100% 巣枠販売6,000匹のうち3,900～4,500匹の生存率確認	・事業実施委員会で協力プランを作成し、安価で簡易な保温箱を考案した。実証圃場で蜜蜂の冬期の寒さによる損耗軽減について試験を実施。また、管理マニュアルを作成し講習会を行った。	協議会の事業計画どおり成果目標も達成されており、適正な事業執行と評価する。保温箱の使用により蜜蜂の損耗軽減効果も確認されており、今後も取組の継続が見込まれる。